

令和 8 年 3 月記者会見

質疑応答の概要

①第 2 次富谷市総合計画の策定

Q.

富谷市総合計画のうち病院誘致やユートミヤなど、これまで行ってきた事業について総括をお願いします。あわせて第 2 次総合計画の意気込みなどを教えてください。

A.市長

第 2 次総合計画は、お子さんをはじめ市民の皆さんからの声をしっかりと受けとめ、審議会にて策定していただきました。その中で、特に長年の課題であった病院誘致は市民の皆さんの命と健康に関わる問題なので、市として公募を行い、結果として学校法人東北医科薬科大学が事業者として決定し、昨年に覚書を締結しました。4 月～5 月に基本協定を締結できるよう準備を進めており、総合計画では 18 の重点施策の一つに病院開設を掲げています。地域医療のモデルとなる富谷・黒川地域のプラットフォームの構築に向けて協議会を設立して協議を進めており、引き続き病院開設に向けて取り組んでいきます。その他 18 の重点施策には代表的なものを掲げていますが、「住みたくなるまち日本一～100 年間ひとが増え続けるまち～」の実現に向けて、一つ一つ施策に取り組んでいきます。

Q.

ロープウェイに関連して、総合計画の中で市民の 73.3%が導入を望んでいるというアンケート結果があるとのことですが、こういったアンケートですか。

A.市長

第 2 次富谷市総合計画の策定に向けて実施した「富谷市まちづくりアンケート調査」において、市民の皆さんが望む今後必要な施策について「仙台市泉中央までの交通利便性の確保」が 73.3%となっており、泉中央間の公共交通を望む声が 1 番多い結果となりました。これまでも地下鉄延伸や BRT など調査を進めてきましたが、予想以上に費用がかかるという結果を受け、令和 7 年度より都市型自走式ロープウェイの導入可能性調査を行いました。調査の結果、物理的には導入可能という報告を受けましたが、現在、Zip infrastructure 株式会社が国へ認可の申請をしている段階であり、現段階ではこれ以上大きな予算をかけて具体的な調査をするのは難しいということで、今回の調査結果を踏まえた自前でできる調査を進めていきます。

⑤令和 8 年 4 月 1 日付け人事異動（内示）

Q.

女性管理職の割合 35.7%は、過去最高で間違いないですか。また、この数値になったことへ

の所感をお聞かせください。

A.市長

そのとおりです。昨年も過去最高となりましたが、昨年よりも 1.6 ポイント上回り過去最高となりました。目標は 40%を目指しており、今後も引き続き男女共同参画社会、女性活躍を目指して取り組んでいきたいと思えます。

Q.

40%目標ということですが、時期としてはいつ頃を予定していますか。

A.市長

前期基本計画の期間である令和 12 年までの 5 年間のうちに達成できればと考えています。

Q.

女性管理職全体で見ると 35.7%ですが、部長職に限ると昨年は 8 人中 4 人で今年は 9 人中 3 人となります。これについてはどのような所感をお持ちですか。

A.市長

部長職だけ見ると減少しておりますが、管理職全体で目標を 40%としておりますので、引き続き達成に向けて取り組んでいきます。

⑦現地決済型ふるさと納税サービス「ふるまち Pay」の導入

Q.

寄附額の何割を返礼としてもらえるのか、寄附額の下限、デジタルクーポンは 100 円単位で使えるのかを教えてください。また、県内の導入自治体は、富谷市が 12 自治体目でしょうか。店舗やレジヤ施設など二次元コードが設置された場所は市内何か所ですか。また、富谷市の直近のふるさと納税額を教えてください。

A.財政課長

返礼品の金額は総務省から示されている 30%ということで、例えば 1 万円の寄付をいただいた場合 3,000 円分のポイントが付与され、寄附額は、5,000 円～25,000 円の範囲での設定です。ポイントは 1 ポイント 1 円から使用でき、県内の導入状況は現地決済型としては県内 12 番目となりますが、その中で「ふるまち Pay」に関しては県内初となります。二次元コードの設置店舗は資料記載の 5 店舗です。また、直近の納税額の状況ですが、令和 6 年度で約 2 億 6,000 万円の寄付をいただいています。

Q.

ふるさと納税の額について、今後の目標はありますか。

A.市長

具体的な目標金額はありませんが、今後も納税額の増加に向けてさまざまな施策を行っていきます。ふるさと納税は、健全財政を維持し、富谷に愛着を持ってもらい、人とのつながりを持ってもらう上でも重要な施策だと思っています。そのため、引き続き地元の事業者の皆さんにご協力をいただきながら、積極的に取り組んでいきます。

その他の案件

Q.

総合病院誘致について、現在の進捗状況や市で行っている業務などあれば教えてください。

A.市長

現在基本協定締結に向けて学校法人東北医科薬科大学と協議しています。基本協定に今後の具体的な取組内容が含まれていますので、基本協定の締結をもって新たなスタートという形になります。

Q.

ロープウェイについて、仙台市長が17日の定例記者会見で「詳細な需要予測や地下鉄南北線泉中央駅での乗り換え方法、駅周辺の交通への影響など示されていない」とお話ししていましたが、今後どのタイミングで示していく予定ですか。

A.市長

泉中央からの公共交通は富谷市民の皆さんが最も望んでいる事業ということで、これまでの地下鉄導入調査も含め、調査結果については副市長を通して仙台市へ報告しており、今回のロープウェイの導入可能性調査の結果も報告させていただいています。しかし今回の調査は、導入が物理的に可能かという調査であり、詳細についてはまだこれからということになります。仙台市長がおっしゃっていた乗り継ぎや交通への影響、採算性などの詳細については我々もそこまで至っていませんので、賛成とも反対とも言えないというのは当然だと思います。なお、引き続き調査は進めていきますので、仙台市には都度相談しながらご報告を重ね、仙台市からも情報を共有してもらえるように、こちらも努力をしていきたいと思えます。

Q.

Zip infrastructure 株式会社代表取締役 CEO の須知高匡さんは、国の認可は2年か3年後というイメージを持っているようですが、その認可を受けた後に富谷市としても仙台市長のお話しにあったような部分について詳細調査をして、その結果を持ってまた相談するというイメージですか。

A.市長

そのとおりです。詳細調査をする際も仙台市の協力が無いとできませんので、調査時期も含

めてご協力をいただきながら、調査を進めていければと考えています。

Q.

仮に導入するとなった場合、費用負担は全額富谷市で持つということで間違いはないですか。また、費用負担が無いとして、仙台市は何を協力すればいいか改めて教えてください。

A.市長

はい、富谷市がこの事業を進めていきます。整備にあたっては法律に基づいて国の支援を活用し、また県の支援もいただけるよう努力していきたいと思っています。例えば支柱を建てる場所や道路の占用許可などは仙台市のご理解とご協力がなければできませんので、そちらにご協力いただけるよう進めていきたいと考えています。

Q.

ロープウェイの調査は今後自前で行っていくとのことでしたが、主にどのような部分を重点的に調査していくのでしょうか。

A.市長

令和8年度の自前調査では、支柱を建てる場所や地下埋設の調査などを進めていきます。

Q.

今後、何段階かに分けて別の調査も行っていく流れですか。

A.市長

そのとおりです。調査を進めていく中で、国の認可の時期も見えてくるかと思しますので、仙台市のご協力をいただきながら進めていければと思います。泉中央駅周辺の渋滞問題は仙台都市圏の中でも特に大きい問題だと思しますので、ロープウェイの駅を設置するだけでなくパークアンドライド等も実施し泉中央に流入する車の量を抑えられれば、周辺の交通にも良い影響を与えられると考えています。

Q.

新年度の追加調査の話の中で支柱の場所や地下埋設の調査とありましたが、地下埋設調査とはどのような調査でしょうか。

A.市長

地下には上下水道管などさまざまな埋設物が設置されているかと思しますので、そういったものも含めて工事や設置が可能か自前で調査していく予定です。

Q.

仙台市区域の調査を行うということでしょうか。

A.市長

まずは富谷市の区域の調査を行っていきます。

Q.

ネイチャーポジティブ宣言について、宣言するというのは推進している J-GBF（2030 生物多様性枠組実現日本会議）という団体がありますが、こちらに登録するというのでしょうか。

A.市長

そのとおりです。

Q.

具体的な活動として大亀山森林公園の杉をヤマザクラに植え替える「森林再生プロジェクト」があると思いますが、NPO 法人 SCR が市の委託を受けて実施していくということでしょうか。

A.市長

森林再生プロジェクトは市が主体となり進めていきます。大亀山森林公園の市有林を先行して伐採していきます。本市は「はちみつプロジェクト」も行っておりますので、蜜源となるヤマザクラなど広葉樹を植林して自然林に戻していく取組が「森林再生プロジェクト」です。最終的には市内すべての杉の木を伐採して広葉樹にしていく予定です。民有林では所有者の皆さんのご理解とご協力が必要となりますので、時間はかかりますがしっかりと取り組んでいきます。

Q.

「森林再生プロジェクト」は市が主体として実施するが、NPO 法人 SCR にも協力していただくということでしょうか。

A.市長

そのとおりです。大亀山森林公園を皮切りに市内すべての杉を自然林に戻していきます。

Q.

富谷高校の皆さんも参加するとのことですが、どのように関わってくるのでしょうか。

A.市長

ネイチャーポジティブ宣言が自然再興ということで、この取組は行政だけでは実現できませんので、市民団体や市民の皆さん、特に次の時代を担う若い方々にネイチャーポジティブを支えてほしいと考えていますので、富谷高校の皆さんにもご参加いただいています。

Q.

この宣言は県内何番目ですか。

A.市長

県内2番目です。